

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	多久市立東原庫舎中央校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力定着のため、教職員の授業力は確実についてきている。児童生徒の学力向上に向け、教師の更なる授業力向上を目指す必要がある。 義務教育学校の強みを生かした学校行事の在り方や、豊かな心を育むための児童生徒の交流活動を推進していく。
2 学校教育目標	夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成ー共に伸びゆく中央校をつくろうー
3 本年度の重点目標	①教師の授業力を向上させることによって、児童生徒の学力向上を図る。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	●教職員がマイプランを共有するとともに、校内研修等により、PDCAサイクルを意識した取組の促進を図る。	C	●教師アンケートからの達成度は66%である。マイプランを確認し、達成できていない項目について改善点を見出し、確実に実践を行う。	B	●達成率が80%まで向上した。数字が示すことと、教師自身の意識は確実に向上している。今後も学力向上対策評価シートを活用した指導の推進を図る。	B	●よい取組である。意識しながら継続していくことで、確実に改善していくと思う。●マイプラン未達成の理由を取りまとめ、個人の問題か、組織体制の問題か検討すること。	●学力向上対策コーディネーター
	○教師の授業力の向上	○1単位時間を完結させる授業を実践していると回答した教師90%以上。	●主体的な学びを促す「めあて」の設定、それに呼応した「まとめ」、思考の射程を広げる「ふりかえり」を確実に行う。●「生徒指導の3機能」を意識した授業づくりを行う。	A	●達成度は92%であり、十分達成である。	A	●達成度92%で、教師の授業力向上により児童生徒の学力も高まり、6年生の県学習状況調査で、国語、算数ともに県平均を上回った。●読売新聞社「読解力向上プロジェクト」に5～8年生が取り組み、論理的思考力や情報活用能力を高めている。	B	●職員の達成度に反して、児童生徒の学力向上に生かされていないのではないか。	●研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分の学級を居心地がよいと感じ、他者を思いやる児童生徒90%以上。	●児童生徒に活動の場を与え、プラスの評価を行い、褒めることで、自己肯定感を高めさせていく。	A	●児童生徒アンケート結果より、90%以上が肯定的な回答をしており、良好に推移している。今後も自己肯定感を高める指導を継続する。	A	●児童生徒アンケートでは、全体の95%が肯定的な回答であった。また、低・中・高学年を比較すると、学年グループが上がるにつれてその割合が高く、よい傾向を示した。	A	●子供たちと課題を共有できるアンケートはよい取組である。●児童生徒がアンケートに対して同じことを書いてしまうことのないようにしてほしい。	●道徳主任 ●人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ見逃しゼロ。○アンケートがいじめ発見につながったと回答した教員80%以上。	●中央子・生活アンケートを毎月行い、いじめ見逃しゼロ及び早期発見、早期対応、解消に組織的に対応する。	A	●アンケートを毎月行い、組織的に対応することで、90%以上の教職員がいじめ見逃しゼロに取り組んでいる。今後も継続してアンケートを実施し、早期対応できるようにする。	A	●児童にアンケートを毎月実施することで、いじめ見逃しゼロに努めていると回答した教員が94%。1月に法によるいじめの定義についての研修をおして共通理解を深めた。	B	●いじめ見逃しゼロの取組は今後も継続を。●アンケートに基づいた対応は、本当のことを書かないことがあるので、本質的ないじめの解決になっていないのではないかと。	●生徒指導主任 ●各学年主任
	○夢に向かって「志」を持ち、夢の実現に向かって自ら進んで努力する児童生徒の育成	○夢を持ち、夢の実現に向け、「具体的な目標を決めて努力している」と答える児童生徒85%以上。	●日々の教育活動に目的意識を持たせ、学ぶ大切さ、楽しさを伝えていく。●児童会・生徒会による活動、及び児童生徒の交流活動を充実させる。●縦割り活動を計画的に位置付け、実践する。	●「夢の実現に向け目標を決め努力をしている」児童生徒は85%である。●体育大会等の学校行事を通して、下級生が上級生に頼もしさを感じたり、上級生が下級生を責任をもって世話したり、交流活動による意識の高まりが見られる。	A	●「夢の実現に向け目標を決め努力をしている」児童生徒は85%である。●体育大会等の学校行事を通して、下級生が上級生に頼もしさを感じたり、上級生が下級生を責任をもって世話したり、交流活動による意識の高まりが見られる。	A	●達成率85%。4年生1/2成人式、7年生立志式、8年生志学式で、将来の夢を全員発表。節目の大切な行事として今後も位置付ける。●志教育プロジェクトの北見俊則専務理事を講師に招き、7～9年生に「夢」と「志」の違いにつ	A	●今は夢をもつことは難しくても、成長とともに将来の夢をもつことができる児童生徒になってほしいと思う。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「早寝・早起き・朝ごはん」が身に付いている児童生徒90%以上。○挨拶、返事、履物そろえがいつでもできる児童生徒90%以上。	●基本的な生活習慣確立のため、家庭との連携強化を図る。●食育だよりを発行する。	B	●概ね85%が達成できている。あいさつと履物そろえについては取組の途中であり、今後更なる指導の充実を図る。	B	●挨拶、返事、履物そろえがいつでもできる児童生徒88%だった。●「早寝・早起き・朝ごはん」の達成率は75%であり、「食育便り」や「保健便り」で家庭への啓発、更に、学級活動や体育科の授業の中でも指導を行っていく。●家庭との連携強化に努める。	B	●家庭の協力が必要なので、学校だけでなく市とも連携して呼び掛けていくとよい。●家庭教育力低下が著しいので、学校教育の中で身に付けさせるのは限界がある。●朝食を食べてこない原因調査をする。●公民館利用の社会体育参加の児童は、一部を除き、規律正しい行動ができていない。	●保健主事 ●生徒指導主任
	○健やかな体の育成	○体力向上に意欲的に取り組む児童90%以上。○運動部活動に意欲的に取り組む生徒90%以上。	●中央オリンピックやスポーツチャレンジによって、児童の運動意欲を高める。●外部人材(部活動指導員等)を活用した運動部活動を推進する。	A	●90%以上の児童生徒が体育や運動部活動に全力で取り組んでおり、十分達成である。	A	●93%の児童生徒が全力で取り組んでいる。●スポーツチャレンジの推進による、体力向上優良校の県教育庁表彰を受賞、また、女子駅伝部が県大会優勝を果たした。	A	●取組を継続してほしい。	●体育主任 ●部活動担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●定時退勤日を設定し確実に実行する。●部活動休養日を設定し実行する。●学校閉庁日を設定し実行する。●電話対応時間帯を設定し実行する。	B	●定時退勤日の確実な実行ができていない。業務の見直しと改善策についての意識をもたせる。●部活動休養日、学校閉庁日、電話対応時間帯の取組は確実に実行できている。	B	●時間外勤務45時間を超えた職員には、その要因と解決策を考えさせ、業務の効率化を図らせた結果、職員の時間外勤務時間の平均31時間にまで縮減できた。	B	●定時退勤日の設定はよい取組である。●時間外勤務の内訳は？業務対応であれば改善し、教育研究であれば効率化を図る。●希望のもてる魅力ある職場環境改善をすることが、子供たちの心の余裕にもつながると思う。	●管理職
	○自分磨きのための時間確保	○仕事と趣味等を両立させている職員80%以上。	●健康づくり情報誌スマイルのセルフケア編の周知活用及びラインケア編を活用促進する。	C	●達成度は65%である。健康づくり情報誌スマイルをデータ配信する際、要約を付け短時間で周知できるようにし、自分磨きの時間を確保する。	B	●仕事と趣味の両立は、達成度70%であるが、休日は趣味というより余暇を楽しむ職員が多く、セルフケアの意識は高まった。	B	●めりはりのある仕事と生活をしてほしい。	●管理職 ●保健主事

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教師の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した教師80%以上。	●特別支援教育ガイドラインを作成し活用する。●リレーションシートを効果的に活用する。	A	●達成度は81%であり、成果指数をわずかに上回っている。●リレーションシートの活用が不十分であった。情報共有の時間確保を検討していく。	B	●達成度66%。講師を招くなど校内での研修を今後も充実させていく必要がある。●リレーションシートの活用に関しては、学年間のばらつきがあった。	B	●リレーションシートの確実な対応と引継ぎを求める。●特別支援教育については、特に共通理解のもとで指導に当たってもらいたい。	●特別支援コーディネーター ●教育相談担当者
○家庭・地域との連携	○義務教育学校・コミュニティスクールとして児童生徒の人間性自立を実現	○学校・家庭・地域が三位一体となって児童生徒を育てていると感じる教職員・保護者80%以上。	●コミュニティスクール推進のため、学校運営協議会を開催し、学校応援団活用促進を図る。●地域の関係団体と連絡を密にし、連携を強化する。	—	●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者参観や学校応援団の活動、地域の方との活動など、外部の方の受け入れを制限せざるをえなかった。今後、感染症予防を徹底しながら、家庭・地域との連携活動を再開する。	B	●三位一体となって児童生徒を育てていると感じている保護者83%。(回答200/522)●学校応援団の活用ができなかったが、外部人材を活用した活動を積極的に行い、学校便り、HPで情報発信を行った。	B	●感染症対策を考えながら、どのような連携ができるのかを私たち(学校運営協議会委員)も考えていきたい。	●主幹教諭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	●教師の授業力は確実に向上している。この成果が、全国及び佐賀県学習状況調査の結果に数値として表れるよう、次年度も引き続き児童生徒の学力向上を図ることを重点目標としていきたい。
----------------	---